

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

1. テーマ

授業のユニバーサルデザイン化への実践的研究
 ～ 気になる子の教育的ニーズを踏まえた授業の改善と環境構成の在り方 ～

2. 問題意識・提案背景

白川町教育振興基本計画『教育夢プラン』では、乳幼児期から中学校を卒業するまで、責任をもって見届ける一貫教育を目指すとの決意を示した。

本町は、平成22年度に岐阜県地域療育システム支援事業の指定を受け、障がい児が住み慣れた地域で必要な療育を受けられるよう、療育関係者の資質向上と「地域療育システム」の構築に取り組んだ。

平成24年度からは、「途切れのない支援」を合い言葉に町内の8つの小・中学校を加えたすべての保育園、小・中学校が一貫して発達支援に取り組む体制を整えた。それは、乳幼児期からの子どもの育ちを途切れることなく見守り、ふるさと白川をこよなく愛し、たくましく心のあったかい子を育てる白川町子ども発達支援システムの構築である。支援を必要とする児童生徒への合理的配慮とともに、ユニバーサルデザインの考え方に立つ授業改善等、すべての児童生徒に対する発達段階に応じた適切な支援について実践的研究を推進する。

3. 指定校について

（5月1日現在）

指定校名： 白川町立蘇原小学校												
学級数及び児童生徒数												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	19	1	18	1	20	1	14	1	28	1	25	1
特別支援学級											1	1
通級による指導の対象者数												
教職員数												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計		
1	1	8	1	2		1	3	1	1	19		

指定校名： 白川町立白川北小学校												
学級数及び児童生徒数												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	3	1	7	1	7	1	6	0	17	1	8	1
特別支援学級			1	1	1	1					2	(2)
通級による指導の対象者数												
教職員数												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計		
1	1	8	1	2		1	3	1	1	19		

指定校名： 白川町立白川中学校										
学級数及び児童生徒数										
	第1学年		第2学年		第3学年					
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数				
通常の学級	36	2	50	2	60	2				
特別支援学級	2	1	1	1	1	(1)				
通級による指導の対象者数										
教職員数										
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
1	1	10	1	4	1	1	2	1	1	23

4. 指定校における取組概要

(1) ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善

蘇原小学校は算数科，白川北小学校は国語科，白川中学校は全教科を通して，下記の研究内容に関わる実践的研究を行った。

ア) 活動の出口の明確化や，活動の見通しがもちやすい課題設定の工夫

イ) 少人数での協同学習で，集団随伴性効果を生かす授業の工夫

ウ) 多様な学習者のニーズを満たすための複数アプローチへの挑戦

各指定校は，研究実践の成果を公表会や実践記録として，町内小・中学校へ広めた。また，専門的アドバイザーから継続的に授業改善の指導・助言を受けた。

(2) 学習面や行動面での配慮による指導方法の工夫

蘇原小学校では，毎週金曜日の放課後を補充学習の時間として位置付けた。児童が学習内容を選択し主体的に学習を進め，教職員及び支援スタッフが学習指導を行った。

白川中学校では，視覚系，聴覚系，運動感覚系の3つの系統から生徒の実態を把握し，授業における指導方法や支援の工夫を行った。

また，各学校において，支援を必要とする児童生徒への学習及び生活支援を計画的に実施した。教職員と支援スタッフは，情報交流と支援の検討を定期的に行い，適切な支援と共に気になる児童生徒の早期発見・支援に努めた。

(3) 適切な実態把握等による早期支援の実施

学期に1回「教育支援部会」を開催し，各学区の保育園，小・中学校，ことばの教室職員等町関係機関職員に専門アドバイザーを加え，支援スタッフ及び教職員の観察記録や映像情報を基に，早期発見スクリーニングを行った。

5. 主な成果

(1) 本時何を解決するのか，何ができるようになってよいかといった授業の出口の明確化，活動の見通しをもたせる課題設定の工夫や授業のパターン化，さらには，児童生徒の実態に応じた支援等，各学校において共通理解を図り授業改善したことにより，児童生徒の不安を軽減し，活動に参加できない児童生徒が減少するとともに，主体的に学ぶ児童生徒が増加した。

また，少人数での協同学習の実施により，コミュニケーションしたり考えたりする時間を十分に確保することができ，分からなさを表出したり「分かる」まで追求したりする児童生徒が増えた。

アンケートでは「授業は楽しい」と回答する児童生徒は小学校96%，中学校78%，「授業が分かる」は小学校97%，中学校76%と，学ぶ楽しさや学習内容理解を実感している児童生徒が増加した。

- (2) 児童が主体的に取り組む補充学習の時間を設定したことにより、自己の学習状況を見つめ、分かるまで追求しようとする児童が増えた。また、個々の理解の仕方について把握し、多様な学び方を肯定することで、児童生徒が安心して学習を進めることができた。
- (3) 支援スタッフに対する研修や学校職員と支援スタッフとの情報交流を充実することにより、支援スタッフが自信をもって支援できるようになった。また、保育園、小・中学校の職員と関係機関の職員が一緒にスクリーニングすることにより、途切れることのない支援を進めることができています。

6. 今後の課題と対応

(1) ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善

研究の中心となる教科における「授業のユニバーサルデザイン化」の効果的な実践が進められている。この考え方を他の教科においても広げて実践を検証していく必要がある。

本町の3つの中学校は、小規模校のため、各学校で教科部会ができないために、教科の授業のユニバーサルデザイン化の研究は極めて困難な状況にある。本町にある3校が協力して拡大教科部会を開催するなどして、授業のユニバーサルデザイン化の研究を推し進めていきたい。

また、公表会や研修会において積極的に町内外の教職員に向けて発信する。また、全国的な発表の場を活用し、実践研究の成果と課題を明らかにする。

(2) 学習面や行動面での配慮による指導方法の工夫

児童生徒の理解の仕方に注目し、多様な学び方により学習を児童生徒が主体となって進められる授業を目指す。また、本町は少子化が進み、現在、2つの学校が複式学級を有している。そこで、電子黒板やタブレット端末などICTを活用し、児童生徒の多様な学び方の補助となる活用について、充実を図っていく。

(3) 適切な実態把握等による早期支援の実施

本年度に引き続き、タブレット端末やビデオ等により対象児童の映像情報を収集し、ケース会議や研究会において児童生徒の特性把握と合理的配慮の検討を行う。また、映像情報として記録に残すことで、児童生徒の変容を確かめるなど、指導・実践の成果検証の充実を図る。

7. 問い合わせ先

組織名：

- | | |
|-------------|------------------------------|
| (1) 担当部署 | 白川町教育委員会 |
| (2) 所在地 | 岐阜県加茂郡白川町河岐1645-1 |
| (3) 電話番号 | 0574-72-2317 |
| (4) FAX 番号 | 0574-72-2340 |
| (5) メールアドレス | kyouiku@town.shirakawa.lg.jp |